

スクーター天国



▲交差点の最前部はスクーター群で占められる、台北の日常的光景。二輪車が四輪車の前方に出て信号待ちできる「二輪車停車ゾーン」が市内に数千カ所設置されています。これは交差点での四輪と二輪の衝突事故減少を目的にした交通システム

台北の街をあちこち歩き回って印象に残ったのは、店の看板の繁体字、氾濫する黄色と赤色、そしてスクーターの多さ。とくに信号待ちのスクーターが無秩序な列をなして並ぶ様子には強いインパクトを受けました。

世界一のバイク大国

日本自動車工業会(JAMA)の[集計データ](#)によれば、台湾国民の二輪車保有台数は1,513万9,628台(2012年)。2012年末時点での台湾の総人口は約2,332万人([中華民国外交部](#))だから、人口1.5人に1台という驚異の保有率。ベトナムの人口2.4人に1台(日本機械工業連合会の[ニュースレター](#)参照)、マレーシアの人口2.8人に1台(以下IMFの2012年人口データ参照)、インドネシアの人口3.2人に1台、日本の人口10.8人に1台、中国の人口14.2人に1台と比べても保有率が突出。世界的にもダントツでトップのバイク大国なのです。



▲雨の日もスクーターの数は変わらず。ポンチョを羽織って乗車する姿を多く見かけます

スクーターがほとんど

バイクの種類は明らかにスクーターが多く、排気量は 100~125cc が中心。これは政府の排出ガス規制の強化にともない、日本でいう原付、排気量 50cc の生産コストが上昇。その影響でコストパフォーマンスに優れる 100cc と 125cc クラスのスクーターが市場を大きく占めているそう。日本では趣味性が強い 250cc 以上のバイクは一部の富裕層に広がりを見せ始めてはいるものの、まだまだユーザーは一部。レジャーのためというよりは生活の足として、実用性本位で小排気量のスクーターが主流となっているようです。



▲朝夕の通勤時には 100 台近いスクーターが信号待ち。市内には新旧のスクーターが共存

二輪天国

ほかのアジア諸国は先進国へと経済成長が進むにつれ、四輪自動車の保有台数が増え、二輪車が減少する傾向が顕著。たとえばベトナムではここ数年、日本のオートバイメーカーが現地から撤退を余儀なくされるほど二輪車の販売台数が急落。しかし、台湾では依然、二輪車の保有台数が変わらないのが興味深いデータです。その理由はあくまで推測ですが、「手軽で便利であること」。このシンプルな理由に尽きるように思います。台湾では250ccまでの二輪免許は18歳から取得でき、その取得には教習制度がなく、試験も簡単。そのため、ほとんどの若者が二輪免許を取得するのだとか。さらにはガソリン代が安く、二輪の駐車スペースも充実。こうした国の体制がMRT 鉄道網や市営バス網の拡張により公共交通が利便性を増しているのにも関わらず、二輪車が揺るぎない「市民の足」として支持されていることにつながっているのでしょう。



▲商店街軒先の歩道に駐車される二輪車。台北市では歩道への駐車を認めていないものの、違反に対しての罰則を設けず、取り締まりもしないのが現状。そのため、車道から歩道に乗り上げ、そのまま走行する二輪車も散見し、歩行には注意が必要です。ここ数年は歩行者保護のため、車道あるいは歩道を削って二輪車の駐車スペースを設置する整備も急ピッチで進められています。社会的な理解と照らし合わせて厳格に規制せず、柔軟に対応しているそう

進化する二輪車界 & 社会

台湾では電動スクーターの普及が図られ始めています。アジアどころか世界的にも先駆者的な動き。台湾の gogoro 社は本格的な電動スクーター「Smartscooter」を開発、販売するだけでなく、同時に電動バッテリーの交換ステーション「GoStation」をたいへん台北市内を中心に 111 ヲ所設置(さらに36カ所を追加予定)。24時間、フル充電されたバッテリーと交換できます。台北市は、カーシェアリング「U Car」の導入に先駆け、電動スクーターのシェアリング「U Moto」を試行していく考えを2015年8月に発表しています。取材時には、「Smartscooter」の試乗会も市内の販売店で行われていて、スクーターが市民の足としてさらに進化していく情勢を肌で感じました。



▲高いデザイン性をもつ「Smartscooter」 © 2014-2016 Gogoro Inc.



▲「Smartscooter」のバッテリー。充電の面倒や手間を省き、バッテリーご市内随所の24時間ステーションでフル充電のバッテリーと交換可能なシステムが画期的 © 2014-2016 Gogoro Inc.



▲台北市内を走る「Smartscooter」。普及に向けての取り組みも実にスマート © 2014-2016 Gogoro Inc.

台北市の策に感心

渋滞や駐車場など都市の交通手段の問題に対して、台北市の講じている策には感心させられます。現実の問題に正面から向き合い、社会の実状もふまえて、どう解決していくのかベストなのか、市民の立場にたって考え、すみやかに対策を試し、実際に講じていく。その柔軟な考えと実行へのスピード感にこの国の素晴らしさを感じる思いがしました。台湾製の電動スクーターはバッテリー交換システムも含めて心から賞賛したい製品であり、交通のありかた。日本のとりわけ都会地も、台北の取り組みをお手本に、都市交通を改善していったらよいのと思います。「Smartscooter」が日本でも発売され、広がっていく日が今は待ち遠しいです。